

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム風の詩
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県阿久根市
記入者名 (管理者)	大平さやか
記入日	平成 20 年 2 月 25 日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	ホームの理念として、個人の人生観や意見などを 尊重することを理念とし取り組んでいるが、地域 の中に溶け込んだ生活を送っているとは言いがた い	○印 (取組んで いきたい 項目) 週に一度、近くの八百屋に行き買い物を 楽しんだり、午後からのドライブで物産 館に立ち寄り地域の方との会話を楽しん だりはしている。今後もそういった機会 を設けるとともに、ホーム近くの住人の 方に対する理解を得るようにしたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	月ごとのケース会議などを通して、ホームの理念 を確認している。また、年度ごとのホームの 目標などはスタッフ間で話し合いホーム運営の方 向性を決めている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	入所契約時や面会時などに、本人様と家族、地域 とのかかわりをホームでも継続して行えることを 説明しており、ご家族に関しては外出、外泊など も随時行える状況にある。地域の方に対しては近 隣の方が若い世帯の方であったり、住居もあまり ないので難しい環境にある	○印 (取組んで いきたい 項目) 今後は、地域の方にホームがどういった 施設であるか理解して頂けるように努力 していきたい
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	ホームとなりにある畑の方が、時々野菜を分けて くださったりしている。近隣に昼間在宅されてい る家がなく近所づきあいといった点では難しい環 境にある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	現在、自治会等に参加は出来ておらず、近隣施設 の利用者同士の交流にとどまっている	○印 (取組んで いきたい 項目) 自治会または老人会の参加ができれば、 そういった取り組みも行っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム敷地内にデイサービスセンターや特老などがあり、利用者間の交流もあるので、在宅高齢者の方のご家族より施設利用の相談等があった場合は、サービスや施設の紹介などのアドバイスをを行っている	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価結果などを参考に、ケアを見つめなおし改善に取り組んでいる	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は設置しているが、日程調整等がうまくいかず実施に至らず	○印 (取組んでいきたい項目) 今後は規定に定められているように定期的な会議の運営に努めたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からの調査などには協力しているが、気軽に情報交換ができていない状態とは言えない	○印 (取組んでいきたい項目) 困難事例やホームでの課題を気軽に相談できるような関わり作りを出来るようにしていきたい。市町村からの依頼等にも随時対応していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見人制度の理解が充分とはいえないが、必要な方には相談窓口を紹介している。(主に社会福祉協議会)	○印 (取組んでいきたい項目) 今後は制度の仕組みや手続きなどの紹介が出来るようにしていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の規定にも記載があり、法人で行っている社内研修でも教育を受け、スタッフの周知は図れている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書兼契約書を提示し内容の説明と個人情報の取り扱い方、入院や退所時などホームでの対応方法や利用者の権利等の説明を行っている。また後日、不明な点などが出てきた場合などにはその都度相談を受け対応している	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より不満や苦情などがある場合は、申し出られる事が多くその場で対応している。また家族の面会時には利用者様の自室での面会を基本としており、その際にはスタッフも立ち入らず利用者様が家族等へ不満を話せるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の状況報告を行っていたが、今年度は実施がなされない事が多く、面会時に状況を報告するほか、特変時に報告する機会が多かった。金銭収支の報告については、定期的に書類を作り送付しており明確に伝わっていると思う	○印 (取組んで いきたい項目) 前年度まで、毎月の状況報告を実施していたので、作業時間を作り前年度のように状況報告を定期的に送れるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の冊子や意見箱などを設置し、苦情受け付け機関、苦情処理委員会の設置をしている旨の掲示をしているが、現在の所苦情は聞かれていない	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月勉強会を実施しており、ホーム運営についても意見が言えるようにしている。また勉強会以外の場合でも気付いたときに随時意見があれば受付ており経営者に相談できる状態になっている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者やご家族の状況に合わせ、勤務の調整は可能であり、必要な人数の確保は出来ている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年度は職員、利用者共に異動がなく落ち着いて過ごされていた	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会のほか、法人内研修に参加をしてもらい、外部講師の話を聞く機会を設けたりしている	○印 (取組んで いきたい項目) 今年度は園内研修に限られていたが、来年度は外部研修へも積極的に参加するようにしたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はいずみ川内グループホーム協議会に在籍中であり、講演会や交流会などに参加している。また、近隣のグループホームとの交流もあり、困難事例などは相談できる環境ある	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間で気軽に話し合いができる状況にあり、勤務交代等も制限を設けていないので、少ないスタッフでもストレスが少なくなるような環境になっていると思う	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフは意欲的に業務に取り組んでおり、ケアの内容等についても意見や工夫が見られている。勉強会などのほか随時意見は言える状況である	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様本人からの意見を聞くようにしているが、初期に関しては、家族からの要望等が中心となっているように感じる。	○印 (取組んで いきたい項目) 利用者本位のケアが求められているので、本人様との早期の信頼関係を築き、家族の意見が反映されるのではなく、利用者様の意見が十分に反映されたケアが提供できるように努めたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所当初は、遠慮なさってあまり要望等を出されないご家族の方も次第にホームスタッフになじみを持ってくださり、ケアに対しての意見や世間話を気軽にしてくださるようになってきている。またスタッフは忙しくてもご家族様より意見等がある場合は対面し聞き入れるように努めている	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族が望まれているケアを考慮し、その日の利用者様の様子に合わせてお墓参りや知人への面会、ドライブなど午後からではあるが、柔軟に対応していると思う	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護計画の定期的な見直しを行い、勉強会などでも随時利用者様の状況と反映させている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事やお茶の時間などを過ごし、利用者様から意見を仰いだり、教えて頂くこともあり共に一日を楽しく過ごしている	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたご家族の方の中には、スタッフとの交流を楽しみにこられる方もいらっしゃるにレクリエーションや雑談を楽しまれる方もいらっしゃる良い関係作りが出来ていると考えている	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族からは入所前の大変な思いを聞かせて頂く機会もあり、入所後の利用者様が穏やかにされる事で、利用者様とご家族との距離が上手く保てるようになってきたという意見を頂いている。また面会時に優しい声掛けができるようになってきたと喜んでくださっている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人のいらっしゃるデイサービスや老人ホームなどへ面会にお連れしたり、時々ではあるがお墓参りにお連れしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間でも好まれる方好まれない方がいらっしゃるのので席の配置や利用者間の言動に気を配り良好な関係が保てるように見守りをおこなっている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者の方についても機械があれば面会に出かけたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者様の希望を汲み取れるように努力しており、本人様が「どうしたい」と訴える場合は可能な限り実現できるようにしている。意思表示をされない方についてはご家族より意見を聞くようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族の面会時などに話を聞いたり、普段の生活の中での言動などより把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の好むすごし方を把握するように努めており、日々の言動からどうしたいのか？をスタッフは常に考えるようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案の時点ではケアマネがアセスメントから立案まで行っており、立案後にスタッフの意見を聞く状況でありスタッフからの意見はあまり出て来ていない。	○印 (取組んでい きたい項目)  スタッフのケアプランに対する理解不足もあり、ケアプランの重要性なども勉強会などで取り組み理解を深める必要がある
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、状況の変化等でもプランの見直しを行うようにしている。またご家族からの要望等がある場合もそれに即したプランに変更するようにしている	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を毎日とり、特記事項や申し送りが必要な事柄については、別紙の申し送り記録用紙に記入しスタッフ全員で情報を共有できるように工夫している	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様やご家族の要望に応じて、外泊や外出など柔軟に対応させていただいているほか、病院受診なども必要に応じて行っている	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域へのつながりが途切れないように、定期的に外出を促し地域の方との交流を図るように努めている	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネジャーとの情報交換は行われているが、他サービスの利用という点までは至っていない	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域支援センターとの連携が十分とはいえない	○印 (取組んで いきたい項 目)	今後地域支援センターとの協力関係を作っていききたいと思う
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院があり、定期的な病院受診を行い健康管理に勤めておられる。また本人様の状況等に合わ		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの病院に専門医がおり、定期的に状況報告し適切な治療が行えている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに准看護師がおり、健康管理を行っている。また必要に応じてはかかりつけ医に上申し指示を仰いでいる		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病院のソーシャルワーカーと情報を共有し、早期退院に向けての情報交換を行っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	異常時には早期に病院受診を行い、家族への報告は随時行っている。重度化した場合や終末期の方に関しては家族と相談の上、退所先を検討している		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者に対しては、ご家族と相談の上退所の方向で話をしている。またその際は退所後の病院または施設への紹介などを実施している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ入所される場合などは、情報提供記録を 作成し渡している。また訪問し様子を見に行っ ている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	利用者の方が好む話しかけ方をしており、日々 の関わり方を勉強会や日常的に話し合う機会を設 け実践している		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり 、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	利用者に合わせて話し方を行い、訴えがある場 合などは個々に合わせた対応をしている。また不 安そうな表情をされているときなどは声をかけ たり寄り添い対応している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	入浴などは日時が決められており、利用者の方 の希望が優先されているとはいいがたい。他のこ とに関しては利用者様の希望に沿って提供され るように努力しているが、工夫が必要	○印 (取組んで いきたい 項目)	園外活動の時間など調整できる点では調 整をし利用者様の望む時間に望むサービ スを提供できるように工夫していきたい
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	本人様の希望を聞き入れ、利用者様によっては 美容院を利用されている方もいらっしゃる		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた盛り付けや食事の形態を提供し ており、準備や配膳なども一緒に行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	時々利用者の方に何が食べたいのかをお聞きしたり、おやつと一緒に選び楽しみの時間になっていると思う		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合わせたトイレ誘導を行い、個々にあった排泄道具を検討し利用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が決まっており、本人様の希望する日時に入浴できているわけではないので、検討の必要性がある	○印 (取組んで いきたい項 目)	職員の体制面で入浴日が固定されてしまっているため、体制面で工夫をし希望日時に入浴できる工夫をしていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人様が自室での休息を望まれる場合はそうしていただいております、本人の好む場所で休息が取れるように支援している		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の特徴を捉え、掃除や洗濯、食事など得意な分野で活躍して頂けるように支援している。また好みの活動に参加して頂き気分転換を図って頂けるような関わりを持っている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、本人さま用の財布を準備し買い物をしていただくようにしている。またお金を持っていたいといわれる利用者様については家族に了承を得た上で本人様に管理して頂いている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方から希望されての外出といった機会は少ないが、ドライブや散歩といった戸外活動に声をかけ希望がある場合にはお連れするようにしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時期に合わせた行事を企画し、花見などは家族にも参加頂き遠くへ外出している。他、鶴見学や初詣などを実施している		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望がある場合には、ホーム側より電話をかけたり、かかってきた場合にも取り次ぎ本人様に話をさせていただくようにしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者の方が来られた際には、希望する場所(自室やロビー)でお茶を飲みながらゆっくり面会できるようにしている		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをスタッフは充分理解しており、不穏行動などがある場合は付き添い対応するように工夫している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の方で他者の入室を拒否される方については、ご自分で居室の鍵を管理され鍵をかけていらっしゃるが、本人さまが管理されていない居室については施錠することはない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様によっては、玄関より出て行かれる方もいらっしゃるので、常に所在確認を行っており、危険行動をされていらっしゃるかなど見守りを行っている	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況に応じて対応しており、注意を促すなどしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホームとしての指針は作成してあるが、ここにあわせた避難の仕方など細かい事までは決めていない	○印 (取組んでいきたい項目) 個々のADLや居室環境も違うので、個々にあわせた避難誘導などの対応策を検討し職員で周知する取り組みを今後していきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し、急変時の対応や応急手当はできるようにしている。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、老人ホームと合同で避難訓練を実施している。また近隣施設に緊急時の応援を依頼している	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプランの作成時や面会に来られた際に近況報告をすると共に、起こりうる危険についても了承を得ている。また病的な事の場合には主治医より家族に説明してもらうようにしている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常などが見られた場合は、看護師に報告し担当医師に上申後必要に応じて病院受診を行っており、早期対応に努めている	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状況に合わせて服薬管理をしており、職員も服薬中の薬についての効能、副作用についてマニュアルを作成してあるため理解している	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	補水の時間を設けており、声かけにて水分補給をしていただくようにしている。また排便チェック表を利用し便秘にならないようにしている	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて、声掛け誘導をおこなったり、介助を行い口腔内の清潔に勤めている	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成し、食事量のチェックを行っている。食事量の減少が顕著にみられる利用者においては個別チェック表に切り替えチェックし対応するようにしている	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、スタッフの私生活面でも注意をするように促している。また消毒や食品の利用などにも注意をしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全 な食材の使用と管理に努めている	食品を定期的に確認し、必要に応じて処分してい る。またまな板などの調理器具も随時消毒を行い 清潔を心がけている		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみや すく、安心して出入りができるように、玄関や 建物周囲の工夫をしている	玄関先には花を飾ったりして、家庭的な雰囲気作 りに勤め、面会者も気軽に入出入りできるように心 がけている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快 な音や光がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫 をしている	共用の空間には、季節の花や果物などを飾ったり している。また気候の良い時には窓を開け外の空 気を感じながらレクリエーションをするなど居心 地良く生活できる工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるような 居場所の工夫をしている	ハード面でソファを置いたりする場所の確保が 難しいが、利用者同士で気の合う方と連れ立って 食堂で話をしたり、一緒にすごしたりされている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのものを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入所時に使い慣れた小物を持ち込んでいただい てもかまわない事を伝えており、利用者によっては ソファやテーブルなど居室においていらっしや る方もおられ、ホーム側でも本人様なりの居室作 りが出来るように支援している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がな いよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに 行っている	温度・室温計を共用空間には設置している。また 定期的に換気を行い過ごし易いように冷暖房など も調整している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	必要な利用者に関しては、居室に手摺を設置し たりしている。また躓き易い障害物を取り除いたり 滑り止めの靴下を履いていただくなど個々にあ わせて対応している	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	出来る事と困難なことをスタッフは常に把握す るよう心がけており、利用者に合わせた声掛け や手伝いなどをお願い出来る事は御自分でして いただくように支援している。また出来ない事は さりげなくスタッフが手伝うようにしている	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しん だり、活動できるように活かしている	気候のよい日はベランダでレクリエーション活 動を行ったり、昼食を食べたりと利用している。ま た自由にベランダに出られベンチでしばらく過 される事もある	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	④ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	③ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、利用者様とご家族との関係性が保たれるように、外泊や外食などされた場合には家賃や食費を免除している。また面会時間も設けておらず、気軽にホームでの面会が出来るように心がけている。他では、レクリエーションや健康管理面に力を入れ入所生活が健康で楽しく過ごせるように支援を行なっている。